

JST CREST研究領域「ディペンダブルVLSIシステムの基盤技術」
ディペンダブルVLSIシステムワークショップ2011/12

出口戦略－DVLSI研究領域の研究成果を産業、 生活の革新につなぐ

Dec. 3, 2011

株式会社 日立製作所
日立研究所

金川 信康

①成果物の要件と③出口戦略の提言

①受取り手からみた成果物の要件

- (1) 効果が明確であること、導入、成功例があること。
- (2) 取り上げた課題、前提条件が企業の問題意識と合致していること。
(技術的+**心理的**ハードルが低いこと。)
- (3) feasibility studyが十分であること、またはその前提条件が実用的、明確であること。
- (4) 第三者の知的財産権の制約を受けないこと、またはその範囲が限定的、明確であること。

③DVLSIの出口戦略を容易化するための提言

- (1) →最初の成功例を作るためのトライアルのリスクに見合った
制度的アドバンテージ
→マッチングファンドによる開発費助成、知的財産上の優遇措置等
- (2), (3) →問題意識、feasibility studyのすり合わせの機会を数多く持つ。
→本ワークショップ?
- (4) →受取り手による知財権の調査、確認は勿論のこと、
研究着手時に背景技術も含めて、公知例調査を実施する。

② 大学研究の活用についての企業行動指針

日立グループは...

<http://www.hitachi.co.jp/rd/aci/>

日立 産学連携

検索

産学連携の取り組み

日立グループは、産学連携を技術経営の重要な活動と位置づけるとともに、日本の競争力と技術力の向上・人材育成に貢献するという見地から、研究開発・新分野創造・人材教育などの広い分野において大学法人組織と積極的に連携を推進して行きます。

日立の技術戦略における産学連携の位置付け

自前主義のリスク回避と外部資源(人材・技術)活用

- ・ 研究開発のスピードアップと基盤技術強化による基幹事業の競争力向上
- ・ 複数領域技術融合による新製品・新サービスの創出
- ・ パラダイムシフトへ繋がる破壊的技術の発掘と事業化
- ・ 即戦力高度技術者の獲得

② 大学研究の活用についての企業行動指針

個人的見解は...

- 公的な研究成果を活用することは、「車輪の再発明」を避けることができ、産業界のためになる。
- オープン化、標準化、他社との協業の流れのなかで、多くの日本企業も外部連携(協調領域、競争領域の線引き)に慣れ、企業マインドも脱「Not invented here症候群」へと変化している。
- 一国民として、産業技術力強化法*の精神を活かしたい。

*(目的)

第一条 この法律は、我が国の産業技術力の強化に関し、国、地方公共団体、産業技術研究法人、大学及び事業者の責務を明らかにするとともに、産業技術力の強化に関する施策の基本となる事項を定め、併せて産業技術力の強化を支援するための措置を講ずることにより、我が国産業の持続的な発展を図り、もって国民生活の安定向上及び国民経済の健全な発展に資することを目的とする。

HITACHI
Inspire the Next